

VOL.16 NO.3 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1983.9.1

整理—むつかしき、とまどい

島袋 敬一

整理，それはどの学問分野でも重要な事の一つであろう。しかし，生来怠け者の小生にとってこれは大変な作業で，実験・観察の記録や，文献・情報等を手際よく整理し，必要に応じ直ちに検索できるようにするのは容易な事ではない。年ごとに新しい専門雑誌が増加するにつれ，一次の情報を整理するのが間に合わず，二次，三次の情報源——抄録誌などで何とかしのいでいる昨今である。自然科学系，とくに応用あるいは先端技術部門において情報産業が成立する所以である。

図書館から借り出した本の背の下端には小さいラベルが貼りつけられ，数字と符号が書き込まれているのがすぐ目につく。数字は周知の日本十進分類法によるものである。小生が借用する図書は470番台で，これは植物学を意味する。さらに1桁台，コマ以下の数字が付され，細分化された専門分野がわかるようになっている。図書館では新規購入図書

目		次	
整理—むつかしき、とまどい…島袋 敬一	1	全国国立大学大型コレクション利用案内	
伊波文庫の隠れた資料……………伊佐 真一	3	(昭和53～57年度)……………参考調査係	14
「ブリッコ」と「ブリコラージュ」		本学教官著書寄贈コーナー……………	21
……………宮内龍太郎	11	投書箱より……………	22
ブラウジングコーナー……………	12	図書館事情……………	23
学外への複写依頼についてお願い		原稿募集についてお願い……………	24
……………参考調査係	12		

を整理するのに、分類表をみてどの分野の本なのかを判断し、適当な番号を記入し配架するのである。現在はどうなっているか知らないが、これまでこのような作業はすべて人手によるものであった。したがってこの作業は人為的判断が加わることで、同一分野に属すると思われる図書でも1桁以下の数字が異なっていることがある。これは致し方ない事であり、琉大図書館は開架方式をとっているので閲覧者にとっては何ら支障はない。

図書館では、従来図書を貸し出す場合、カードに必要事項を記入させ、さらに出口で貸出しをチェックしていた。ところが最近ではこの手続きが大巾に簡素化された。各個人にIDカードが配られ、図書館業務に電算機が導入されたからである。図書館での電算機利用は今後ますます拡大することが予想され、例えばレファレンス・サービスで、ある種の問題に関する論文はと問えば、たちどころにどの雑誌の何巻のどこにと答えがかえってくるようになっていく。

さて、図書館から本あるいは雑誌を借用して来て閲読する作業に移ろう。小生はこれまで読んだ事の要点をルーズリーフに抜き書きしてファイルする一方で、図書索引カード——横罫に縦に2本赤い罫線のある12.5×7.5cm——に著者名、論題、誌名、巻号(年)、頁、短い要旨などを記入してきた。そしてこのルーズリーフやカードを事項ごとに自分なりに分類してバインドするか、ケースに納めていた。ところが最近ではコピー機なるものが発達して便利になり、必要なのはすぐコピーをとるようになった。そしてそれがかなりの量になっている。ここで、また怠け癖が頭をもたげてきた。いつでも手許にある安心感から検索の方法を考えてなかったのである。あれを見、これをひっくり返し、机の上は雑然もよいところである。

パンチ・カード(20.3×12.6cm, Holesort, A-3693, 特注)も使用している。これは植物標本室の仕事と関連して、分布資料や植物写真の整理に用いている。カードの周囲には型通り2列の穴があり、アルファベット、数字や仮名が並行して印刷してある。これは小生にとってはなかなか便利で、必要事項を記入した上でエングラの植物系に従ってパンチすれば、カードが乱雑に並んでいても綱、目あるいは科単位の検索は勿論、種(学名)または和名でも引出せるようになっていく。しかし、これも時代おくれになることは目にみえている。

近頃、国立科学博物館の金井弘夫氏が、初めて植物の分布図を電算機を用いて作図させた。これは日本の地名(5万分の1地図にでている)を経・緯度により座標化(トカラ列島以南については小生も協力)したロカリティ・インデックスを設定したことで可能になったものである。これまで白地図に手作業で分布地点をプロットしていた小生にとってこの事は驚異であった。電算機を知らないと時代にとり残されると感じていたところ、琉大にも計算センターが開設され、生物学科にも端末機がついた。これを横にみながら思案中に、小生の研究室で電子上皿天びんを購入し、学生諸君が早速資料の秤量に使用し始めた。これには小さいながらプリンターもついており、統計処理の演算が瞬時にできるようになっているのには感心した。このことが端緒になって我々の研究室ではパソコンまで購入した。学生諸君はこういう機器に順応するのが速いが、小生自身は野外調査で資料がたまるだけで、どれもまだ使えないでいる。とまどいながらも、何とかしなければと多少あせっている今日この頃である。

—————(しまぶく けいいち:理学部教授・植物分類形態学)—————

資料紹介

伊波文庫の隠れた資料

伊 佐 眞 一

(1)

マス・メディアとしての新聞の役割は、単に社会の各分野における種々雑多な出来事や批判を伝える媒体としてあるわけではない。ひとつの「事実」にしたところで、記事掲載にあたっては媒介対象を取捨選択する過程において、価値判断がそこには存在するし、そのことが往々にして伝達された内容をつうじて、一方においては対象物に向かう社会一般の関心度を、他方では記述者の問題意識の程度を新聞が体現することにもなるのである。このことから、資料として新聞のもつ意味あいは決して狭い範囲のものではなく、仮りに明治・大正の沖縄近代史を例にとってみても、そのことは十分に頷けるものである。

明治26年(1893)9月15日創刊の『琉球新報』以来、太平洋戦争終結に至るまでの約半世紀は、様々な政治的、経済的、思想的要因と結びついた多くの日刊、週刊、旬刊の新聞が生まれては消え、消えてはまた誕生するという年月でもあった。大正年間だけでも奄美を除く沖縄全域で、30に近い新聞が発刊されている事実がそれをよく示しているが、それはあたかも大正の新鮮な時代思潮の一石が、強烈な触媒作用をひき起こしたかのような印象さえ与える。

<大正に創刊された新聞>

大正3年(1914)	沖繩日日新聞
沖繩民報(9月)	沖繩日報
沖繩毎日新報(12月)	大正9年(1920)
沖繩実業時報	宮古時報(6月)
発展	宮古民友新聞(11月)
南国日報	沖繩タイムス(12月)
大正4年(1915)	宮古新報
沖繩朝日新聞(11月)	大正10年(1921)
沖繩警醒新報	八重山新報(2月)
演芸新聞	大正12年(1923)
大正6年(1917)	沖繩経済新聞
先嶋新聞(4月)	沖繩実業新報
理想新聞	沖繩日乃出新聞
宮古朝日新聞 } (又は4年)	大正13年(1924)
宮古公論 }	コドモ新聞(7月)
大正8年(1919)	沖繩ウイクリー
沖繩時事新報(8月)	

(2)

これから紹介するのは、上に列記したうちの『沖繩タイムス』（戦後の同名紙とは別）と『沖繩朝日新聞』、加えて明治以来言論界をリードしてきた『琉球新報』の3紙である。これまでのところ、いずれの新聞に限らず大正から昭和にかけて、その大部分が欠落のままになっており、改めて大戦の爪痕を感じざるを得ないのだが、それだけに今回見つかったものは、不明分量のごく一部にすぎないとは言え、これによって大正末期における沖繩の新聞の様子ばかりでなく、その他の社会事象までも窺い知るための小窓にはなるうかと思う。まずは、その目録から案内しよう。

沖繩タイムス

大正13年(1924)

- 7月3日(木・第1205号)
- “ 4 (金・1206)
- “ 5 (土・1207)
- “ 6 (日・1208)
- “ 7 (月・1209)
- “ 8 (火・1210)
- “ 9 (水・1211)
- “ 10 (木・1212)
- “ 18 (金・1217)
- “ 19 (土・1218)
- “ 21 (月・1220)
- “ 27 (日・1226)
- 8月1日(金・1230)
- “ 5 (火・1234)
- “ 29 (金・1257)
- “ 30 (土・1258)
- “ 31 (日・1259)
- 9月2日(火・1260)
- “ 3 (水・1261)

1, 2面の下3分の1
(日付不明)

沖繩朝日新聞

大正13年(1924)

- 6月28日(土・第2932号)
- 7月7日(月・2941)
- “ 8 (火・2942)
- “ 13 (日・2947)
- “ 14 (月・2948)
- “ 18 (金・2952)
- “ 19 (土・2953)
- “ 25 (金・2959)
- “ 26 (土・2960)
- “ 28 (月・2962)
- “ 30 (水・2964)

琉球新報

大正13年(1924)

- 5月21日(水・第8446号)
- 7月11日(金・8497)
- “ 15 (火・8501)
- “ 18 (金・8504)
- “ 20 (日・8506)
- “ 22 (火・8508)
- “ 28 (月・週刊号・8514)

重複している日時もあるが、3紙の合計37日分は、大正13年(1924)5月から9月にかけてのものである。出所は、琉大図書館所蔵の伊波文庫です、と言うと不思議に思うかも知れない。伊波文庫は、『おもろさうし』をはじめとする161冊の古文書から成る伊波普猷の旧蔵書であり、それ以外に未整理資料があるわけでもないのである。首をかしげるのも無理はない。ところが、意外にもこれら古文書のうち、『疱瘡歌』、『受劔石』、『琉古歌集』以下6冊に下敷用紙として使用されていたのである。ヨコ半分、あるいは4分の1の大きさに切断されていたことが、過去25年以上にもわたって誰にも気づかれる

ことなく眠り続けた原因であったのだが、この際、310枚に切り刻まれた紙片を合成し、ほぼ完全にもとの紙面を恢復できたのは、まさに幸運だったと言うべきだろう。

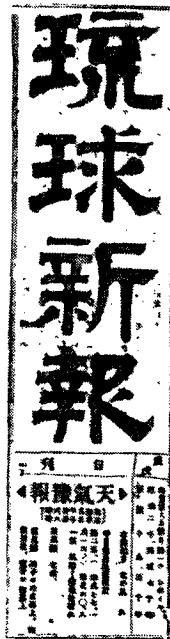
(3)

『沖繩朝日新聞』は、『琉球新報』社主の尚順一派に対し、「閩族打破」を掲げて反旗を翻した当真嗣合、仲吉良光、末吉安恭（麦門冬）らによって、大正4年（1915）11月10日に創刊された。翌年、社屋を那覇区天妃から通堂の近くに移したものの、大正13年に寄留商人の東という後援者が事業に失敗したのが原因で、那覇市西本町に再度移転をした。通堂時代、荒れ放題の新聞社にヒントを得て、比嘉栄松記者が「骸骨塔」というユーモア三行評論を書きつけたことはよく知られている。（沖繩朝日・大正13年6月28日、7月8、13、14日）

『琉球新報』については、多言を要しないが、大正13年当時、社長は嵩原安佐、編集長は32才ながら真和志村長を兼ねていた真栄城守行。今回の新聞を見て、まず最初に目をひくことは、題字がそれまでの隷書体から篆書体書きかえられている事実である。創刊時に行書体であったものが、明治後半になって隷書体になり、それが大正年間の篆書体を経て、昭和になって再度もとの隷書体に逆戻りしているのである。このことは単に題



(明治31年)



(明治～大正)



料寄費 元珠日登ノ日紙張天

二四一郵本電	部印郵西小	部印郵西小	部印郵西小	部印郵西小
號號號號號	部部部部部	部部部部部	部部部部部	部部部部部
活活活活活	部部部部部	部部部部部	部部部部部	部部部部部
字字字字字	部部部部部	部部部部部	部部部部部	部部部部部

行行行行行
行行行行行
行行行行行
行行行行行

(大正 13 年 5 月 28 日)



「第六」字號 第四十月六

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十

(昭和)

『琉球新報』・題字の変遷

これら3紙はいずれも、火曜日から日曜日までは4頁建、月曜日が2頁建であり、三大節と祝祭日の翌日は休刊、そして、購読料が1ヶ月60銭、1部3銭という共通点がある。

(4)

ここで紙面内容に触れながら、当時の沖縄社会の情況、とりわけ経済状態に目を向ける必要があろうかと思う。大正13年と言えば、世界的な戦後恐慌の余波が押し寄せた頃であり、沖縄の主要移出品であった黒糖の相場が大幅な下落を示すと同時に、対外取引においても入超を記録し始めた2年目に当たっている。俗に「ソテツ地獄」と呼ぶ時代の幕開けになるわけで、これについて当時の沖縄県で産業課長の職にあって、3銀行の整理・合同問題にも携わっていた田村浩は、『沖縄経済事情』の中で、「沖縄近代経済史を明治十二年廃藩置県を第一期とし、明治三十六年土地整理時代を第二期とせば、大正十四年の銀行問題並沖縄救済問題は當に第三期を割したるものと謂ふべし」と述べている。同様に大正13年7月19日付『沖縄朝日新聞』も「本県の経済策(上)」と題する社説で、「本県の経済界は慢性的貧血性に苦しみつゝあるが、近年此症状が段々濃厚になり今や百策尽きて手の付けやうがない、則ち経済界の窮迫が年と共に深刻を加へ、農村の疲弊、事業界の不振、金融検閲の破綻等憂ふ可き現象が随所に現はれ、次第に濃厚さを増しつゝありて、今や救済の爲めに適当な方策を講ず可き必要に迫られつゝあるが之が対策を講ずるには先ず経済界の疲弊を来した根本原因に溯って其真租を会得する所がなければならぬ」と主張している。恐らく、この文章はその内容の調子から判断して、『沖縄の経済難局とその対策』の著者であり、かつ沖縄朝日の社長でもあった眞嗣合の筆になるものであろう。ほかに沖縄経済の窮況を論じている記事として、「速進政策に傾ける経済救済問題」があり、「本県経済救済の根本たる既設銀行の救助に就き県当局の態度は突猪的速進政策を把持するに傾きしものゝ如く亀井知事は赴任以来爾余の重要庶務は悉く差し控へ専ら経済問題の解決に没頭し最善の努力を致すことに其の意図を決めたやうである」(沖縄朝日・大正13年7月25日)と述べているし、「本県の産業」(同・7月26日)、大正13年7月22日付『琉球新報』の「金口木舌」などにも頻繁に見られる。そして、沖縄にとって、砂糖がいかに重要産物であったかは、3紙が「砂糖市況」、「砂糖平均相場」、「黒糖相場」、「県外砂糖電報」、「県外糖況」、「鹿児島砂糖通信」を掲載していることからわかるが、蘇鉄の味噌汁を食べたがために男女6名が死亡するという宮古でのニュースは、統計数字の表現し得ない庶民の生活を物語っているとも言えるはずである。(沖縄朝日・大正13年6月28日)

以上のような社会的背景のなかで、新聞経営が困難を極めたであろうということは、大よその察しがつくというものである。論より証拠、3紙とも紙面の半分以上を広告に振り向けているばかりでなく、その紙面作りも全体的に粗雑になった感を与えるが、この点、高嶺朝光は前掲書の中で次のように回顧している。「大正末から昭和初期の沖縄の新聞は寡少資本に経営規模も狭少、企業体制は個人経営に毛の生えた程度で、発行部数も広告も沖縄の経済実勢を反映して多くを望めなかった。」当時は、いずれの新聞も大なり小なり「前近代的な大福帳式経営」であって、景気変動の影響をまともに蒙ることになったのも無理ないことであろう。

さて、これら3紙とも本土政界の情報については、1日遅れで「東京電報」を載せてい

るが、沖縄の政治風土をみるのに恰好の社説があるから、それを次に掲げよう。「兎角沖縄人は弱い、弱い為めに依頼心が出るのか、依頼心の為めに弱いのか、夫處にはデリケートな因果関係が存する様に思はれるが慶長役以来絶えず脅かされてばかり居る沖縄人の境遇が民族心理の上に斯様な暗影を生み出したのを考えて見れば無理のないことではある。知事が更送すると無意識の間に此の暗影が動き出して求める者の弱さと疵持つ者の弱さが相交錯して色々の悲喜劇が演ぜられる、前者は雀躍と追従を事とし、後者は落胆と恐怖に錯される、畢竟依頼心の勝利と依頼心の敗北を表徴する二つの場面が新旧知事を中心として展開されるのが常である」（「自主独立」沖縄朝日・大正13年6月28日）

これは沖縄人の事大主義や「空道」的性格をも暗に批判しているが、直接的には亀井新知事が来沖する前だということのほか、その年1月の政友本党結成後における沖縄の政治家たちの行動を念頭に置いている。沖縄政界の離合集散の激しさに関しては、『沖縄タイムス』（大正13年7月9日）の「小春秋」もまた、「昨日の敵が今日の味方となり今日の味方が明日の敵となると云ふ有様では政党の発達成長は困難である、政党を個人的利害問題に余りに立入って関係せしめるから来る弊害がそれなのだ、政党といふ団体をして永続性あらしめ又発展性あらしめるには国家的社会的の問題以外には触れず個人的利己的關係より超越せしめなければならぬ、さなくては黨員が銘々の利害問題から嫉視反目し分合頻繁となり政党は遂に根基を失ふ」と評している。そこで、政治的対立の実例——「低気圧の中心地が八重山郡ならば、政治界に於ける低気圧の中心地は中頭郡の北谷村である。北谷村に於ける白黒両党の対峙戦は実に猛烈を極むるもので、所謂婿取り嫁取りもせぬと云ふ調子で、恨み骨髓に徹しているの態があるが、今回の村会議員総選挙に於いても亦白熱的激戦を演じ、流血の惨を演出せむ迄に悪化したが、結果は白党の勝利となり、黒党は惨敗を遂げた。」（タイムス・大正13年7月5日）有名な「シルー・クルー」である。

社会面で特に目立つ出来事としては、沖縄から出稼ぎに出た女工たちによる、和歌山紡績紀ノ川工場でのストライキ破り事件がある。大正13年5月に発生したこの争議で、沖縄選出の衆議院議員3名（岸本賀昌・宜保成晴・神村吉郎）が当地を訪問して、沖縄女工のスト破りを激励、応援したというので、更に大きな反響を呼んだことがわかる。「日頃は人間あつかいもされぬ彼等が罷工中間あつかいされるのであるから弱者の心理として乗り気になり労働界の反逆者となるのは自然の情でもある。けれども彼等としては早く他府県労働者と同一の待遇を受けることに進むべきであって代用品扱ひされるべきではないことも自覚されやうではないか。若し他府県労働者に対する不平があったならば問題の出づる時に其の不平を医すべき道をとるも遅くはない。」（タイムス・7月21日）と、「小春秋」は述べた。同じく7月27日のタイムスには、前年6月に第一次共産党事件で検挙されたばかりの仲宗根源和の意見があり（「罷工破りと馬鹿を説く代議士（下）」）、ほかに7月20日付『琉球新報』で比嘉春潮が、「和紡女工の行動の県民に及ぼす影響（下）」と題して、次のように書いた。「要するに今回の争議に於て紀川工場の本県女工は一時的の会社側の感謝一時的の優遇を得たが一方に同僚よりの排擠侮蔑疾視を受従来より聊か其気味のあった劣等民族扱を益々深くした結果になり全国他工場に於ける本県出身職工は此争議によって何等得る所なく而も肩身を狭くするの境遇に陥る（中略）思慮ある三代議士に対しかゝる想像をするのは礼を失するけれども若し仮りに——真に万々一談話者

の報道が事実であるとすれば私は沖縄人のために耻辱と憤懣を感じるものであるおよそ今回の争議において会社側は本県職工を見くびってかゝってゐる勿論原因は本県女工にあるのだけれど他の四工場からの応援隊の如き会社側が本県女工の無智無自覚低級無恥なるを見てとったからである事実において然りとすれば吾々は自らかへりみて恥ぢる外はないしかるに三代議士——県民が選出した其代議士までが会社の優待に感泣して罷工破りを讃美する迄になればもうたくさんである会社側の人でも心あるものは沖縄県人全体を蔑視し見くびる筈である三代議士の会社訪問は罷工破りと相俟って紀川工場の内外及全国の工場における県人蔑視を助成するものである」

これらの論議は、紡績女工の虐げられた労働実態を取材した、「大阪に流れ込む本県女工の生活」（新報・7月11, 18, 20, 22日）と一対をなすものと言えらるう。

(5)

最後に、そのほかに注意をひいた記事を取りあげてみよう。山里永吉氏は、1979年8月22日付『沖縄タイムス』夕刊の「私の戦後史（3）」の冒頭、「大正十三年、夏休暇で沖縄に帰り、波上通りのレストラン『波上軒』で個展を開いた。『マヴォ』同人になっていたし、われわれの作風を村山知義は『意識的構成主義』と呼んだ。この展覧会のことを沖縄タイムス（現在の同名社とは別）が社会面トップで大きく取り上げ紹介したのでかなりの反響があった。」と書いている。「近く波之上軒で個展を開く最も新しい芸術家マヴォ山里君」（タイムス・大正13年7月18日）、「意識的構成主義山里君の個展本日より三日間於波之上軒開催（入場無料）」（同・7月27日）とあるのが、それにちががなく、この晴れがましい友人の個展のニュースは、当時八重山にて鬱屈した思いで暮らしていた山口重三郎（のちの山之口夔）にとって、焦燥感を増すものであったという。（仲程昌徳「山之口夔の短歌」『琉球大学法文学部紀要・国文学論集』第27号）

文芸については、『沖縄タイムス』が割合に力を入れているようだけれども、他紙にしても「朝日詩壇」，「朝日歌壇」（沖縄朝日）、「琉球歌壇」（新報）があり、その中には池宮城績宝と池宮城美登子氏の興味深い作品も含まれている。

以上、取り急ぎ紹介してきたが、ほかにも仲吉朝助「沖縄県下地租の過重に就いて」（タイムス・8月5日）、島袋源一郎「仏国宣教師渡琉史（八）」（沖縄朝日・7月8日）、宮良長包「音楽雑話（一）」（新報・7月22日）、坂口総一郎「涼しい琉球（一）」（新報・7月28日）等のあることを付記しておきたい。

いずれにせよ、伊波普猷もいい資料をオマケに残してくれたものである。

（いさ しんいち：図書館閲覧係）

「ブリッコ」と「ブリコラージュ」

宮内 龍太郎

琉大に入学して1年が過ぎた。最近キャンパスも整備されて、図書館前のプロムナードなどは東京郊外に移転したマンモス大学のようにも見える。学生たちも「ポパイ」、「J・J」とまでいなくなるとも、かなりファッションブルになってきた。

そんなこの頃、気になってしょうがないことがある。琉大生のブリッコである。ブリッコと言っても、松田聖子ならば可愛いが琉大生のブリッコでは見苦しい。琉大生のブリッコは勉強ブリッコである。

前々号の「びぶりお」で現代学生の風潮として、まじめで、おとなしく、勉強しないというのが載っていた。それに琉大生は講義への出席率もいいそうだ。医学科を除いては勉強しないでも入れる大学へ入ってまでも勉強するふりするなんて、まったく信じられないことだ。

ゴールデン・ウィーク中でも多勢の学生が大学に押しかけ、生協の食堂はいっぱいになり、また、夏休みに入っても図書館に多くの学生がいる。

そう言えば学友のひとりが土曜日を休みにできるのにわざわざ一科目登録して大学へヒマを潰しに来るといふ。大学へ来る以外することが見つからないらしい。とてもかわいそうなことだ。しかし、学生のほとんどがこんなふうなのではないのか。ひとりではられない、することが見つからない、しかたないから大学へ勉強ブリッコしに来る。

図書館でおしゃべりが問題になっていることだって、学生がブリッコで図書館を喫茶店がわりに使っているからであり、もともと図書館はひとりになりに行く場所なのである。

人間誰でも、こんなことをしてみたい、あんなところへ行ってみたい、あんな人になりたいと思って、考え、動き回る。それはどんなことでも、ひとりで考え、どんなときでも、ひとりから動き出す。まずは、自分から始まる。自分で考え、自分が動かなければ何もできやしない。

レヴィ・ストロースは、市場社会のシステムに規定されることなく、限りなく自由に自然に原始のロマンに戻るにより行われる作業を「ブリコラージュ」と言った。高校までは学問でも、あそびでも、かなりの規制があった。受験勉強は好きでやるものじゃない、大学に入ってやっと好きな学問やあそびができるのだ。「ブリコラージュ」としての学問やあそびが大学にはあるはずなのだ。それを期待して、誰もが入学する。ただ知識を増やしたり、教員試験の資格だけを得るために大学生をやっているのではない。

森毅ふうに言えば、もっとうろろうすべきなのだ。うろろうして、いろいろなところへ首を突っ込んで、自分に合った学問やあそび、そして仲間を見つける。これが大学生に許される大切で重要なことではないのだろうか。大学とはそのために利用するところなのである。

ただし、うろろうするにもマナーがある。うろろうして、首を突っ込む、そのとき迷惑をかけないようにするわけにはいかない。誰でも新しい仲間に入るとき、最初はオジャムンだ。そのオジャムンの妙なやつと自覚することがマナーなのである。他人に迷惑をかけないで暮していくことなんてできないのだから、要は迷惑をかけることに鈍感になるなということだろう。うろろうしながら気を使う、そのややこしさを避けては、いつまでも同じ所にいなければならない。

こうして、ひとりで考え、ひとりでうろろうして、首を突っ込み、オジャムンになって、本当に勉強したり、あそんだりすることができる。

知識を詰め込むだけなら他の大学でもいいやそれだけなら、都会の大学の方がいい。なぜ琉大なのか、なぜ沖縄なのか、ひとりで考えてはどうだろうか。

ブリッコとブリコラージュでは大違いなのだ。もっと、沖縄の空気を吸い込むべきなのだ。

————— (みやうち りょうたろう :理学部・海洋学科・2年生) —————

ブラウジングコーナー

チャンポン

—昨年九州へ出張した際に長崎でチャンポンなるものを食味する機会があった。めん類が好きなので、めんが入っていれば何でもおいしいと何時も思うのだが、ひもじかったせいか、その時のチャンポンの味は格別であった。何かの用事で与那原へ出かけ、帰りがけにそばでも食べようかとそば屋へ入ったら、メニューにチャンポンと書いてあるのを見つけた。ためらわずにチャンポンを注文した。今か今かと待ちかまえている所へ持ち出されたのを見てめんくらってしまった。飯の上に肉の小々まじった野菜いためがのっかっている。どう見ても長崎チャンポンとは遠い親類とも思えない。まさかれっきとしたそば屋が、飯の上に野菜をおくとは思わなかった。なるほどごちゃまぜにすることがチャンポンなのだから、肉やいろいろな野菜をごちゃまぜにして油でいためてあるからチャンポンには違いない。あきらめて食ったが、まずくはなかった。それにしても「所かわれば品かわる」とは良く言ったものだ。与那原チャンポンと長崎チャンポンがあるとは知らなかった。

(T. Y. 閲覧係)

学外への複写依頼についてお願い

参考調査係

本館にない文献の複写については、相互利用の一環として、他大学図書館にお願いして

いますが、今年年間約 2,500 件（前年度は 2,111 件）にも達するのではないかと予想されております。しかしながら、なかには書類不備などがあり、その調査のため、時間と労力が犠牲にされ、大変困っております。勿論、係でも調査して補記しておりますが、出典、その他の記録がなお不備のため、所蔵館の担当者に迷惑をかけているばかりではなく、入手できる資料までが、所蔵なし、参照不能などとしてもどされるケースもあります。つきましては、下記事項に十分注意されて、例示のように正確に御記入のうえ、申し込んで下さるようお願いいたします。

記

1. 雑誌名はできるだけフルタイトルでかいていただきたいと思いますが、略誌名をおかきになる場合は、BIOSIS List of Serials with Coden, Title Abbreviations, New, Changed and Ceased Titles. を御利用下さい。
2. 巻号、出版年、ページ、著者名、論題は正確に記入して下さい。
3. 支払区分の「0 校費、1 私費」の区別をはっきり○印でかこむ。学生はすべて私費になります。職員の校費申し込みでも国立大学図書館にない場合は、私費扱いになるのであらかじめ御了承下さい。
4. 文字（英文）はタイプしていただきたいのですが、筆記の場合は判読できるようにかいて下さい。
5. 所蔵箇所、申込者氏名、所属もはっきり御記入下さい。（学生は学生番号もかいて下さい）

文献複写依頼書 A	琉大 対	依頼番号	受付番号	支払区分	複写経費	経費訂正	
	4 0 0 0 0			0 1 校 私		0 1 不足 超過	
	誌名 - The Journal of Biological Chemistry 省略名 - (J. Biol. Chem.) 巻号年 - vol.258, no.7, 1983 ページ - pp.4472-4476 著者 - William J. Pinto & William R. Nes 論題 { Stereochemical Specificity for sterols in Saccharomyces cerevisiae				経費内訳		
					種別	数量	金額
					電子複写		
					基本料		
					フネガ		
					イルム		
					フィッシュ		
					引伸		
(所蔵箇所 九大 図)				送料			
上記のとおり依頼します。				合計			
(依頼館名) 琉球大学附属図書館				依頼年月日			
TEL 09889-5-2221 (内線) 担当者				受付年月日			
申込者氏名 琉大 太郎				発送年月日			
所属 琉大学部				受領年月日			

全国国立大学大型コレクション利用案内 (昭和53～57年度)

参考調査係

これらのコレクションは、各国立大学が文部省に申請して、全国共同利用の目的で購入された資料です。ご利用下さるようご案内します。

なお、ご利用の際、疑問点のある場合は参考調査係へおたずね下さい。

昭和53年度

大学名	資料名
北海道	<ul style="list-style-type: none"> • ボリス・スヴァーリン・コレクション • 18世紀ロシア研究叢書 • 英・独・仏語によるソ連・東欧研究コレクション
小樽商科	<ul style="list-style-type: none"> • フランス革命期刊行文書および研究書コレクション
弘 前	<ul style="list-style-type: none"> • 経済学古典コレクション
東 北	<ul style="list-style-type: none"> • ハンサード英国議会討論報告 • 米国政府刊行物・議会議事録
福 島	<ul style="list-style-type: none"> • 19～20世紀ロシア・ソビエト研究
筑 波	<ul style="list-style-type: none"> • 心理学・精神病学書コレクション
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> • ドイツ議会議事録ならびに議会資料
東 京	<ul style="list-style-type: none"> • マザラン誌コレクション • アラブ文化・アラブ学研究コレクション • オーストラリア総合法令集判例集体系（連邦・各州） • インドネシア関係文献マイクロフィッシュ
東京外国語	<ul style="list-style-type: none"> • アラビア現代史料 • ブラジル・コレクション
東京学芸	<ul style="list-style-type: none"> • ドイツ教育学集書

- | | |
|-------|--|
| 東京芸術 | • 音楽学学位論文集 |
| 東京商船 | • 「キャラバンマリタイムブックス」コレクション |
| 東京水産 | • チャレンジャー号探検記 |
| 一橋 | • フランス経済学コレクション |
| 金沢 | • フランス法律判例コレクション |
| 名古屋 | • フランス, 官報及び議事録
• ハンサード英国両院本会議録
• インド立法関係資料集 |
| 愛知教育 | • コロンビア大学教育学叢書 |
| 京都 | • アイルランド大学出版局英国議会議事録シリーズ
• フランス国民議会議事録
• ドイツ帝国議会議事録
• 台湾国立中央図書館善本漢籍
• イタリア史誌 |
| 大阪 | • アメリカ政府所蔵日本国政文書（外務省, 内務省, 法務省） |
| 大阪外国語 | • 中国方志叢書 |
| 神戸 | • ロシア・ソ連で出版された日本関係文献
• 合衆国議会公聴会記録 |
| 岡山 | • ドイツ帝国統計書 |
| 広島 | • ハンサード英国議会議論報告
• 戦争と平和に関する文献目録 |
| 香川 | • ニューヨーク証券取引所上場会社年次営業報告書 |
| 福岡教育 | • 英国教育史研究資料 |
| 九州 | • 故シャルル・ペラ教授旧蔵書
• ドイツ連邦議会「戦後分」議事録 |

- 九州芸術工科 • ロイド・モーガン教授建築学関係コレクション
- 熊 本 • 英国議会報告書1801—1899年
- 昭和54年度
- 北 海 道 • ドイツ法制史・実定法関連コレクション
- 弘 前 • 初期英語文献協会出版物
- 東 北 • 米国判例体系
 • 英国古書集成
- 山 形 • 上杉文書
- 筑 波 • マックス・ベッソン・ジャポニカコレクション
- 埼 玉 • 現代政治学基本文献集
- 千 葉 • イギリス知体験
- 東 京 • 英国政府刊行物
 • 民国時代公文書資料
 • 舌耕文芸関係資料
- 東京学芸 • 芸国教育学文献集成
- お茶の水女子 • 女性の歴史
- 横 浜 国 立 • 中国方志叢書
- 新 潟 • 欧州各国公式経済統計資料
- 富 山 • 承政院日記
- 静 岡 • 国際連盟関係コレクション
- 名 古 屋 • ホッブスを中心とするイギリス思想史原典コレクション
- 京 都 • 台湾中国国立中央図書館善本漢籍
 • フランス国民議会議事録

- 京 都 教 育 • 教育情報センター文献資料
- 大 阪 外 国 語 • 北欧歴史と民間伝承コレクション
- 神 戸 • ロシア・ソ連で出版された日本関係文献
- 神 戸 商 船 • 近世の廻漕史料（東北編）
- 奈 良 教 育 • アメリカ主要大学教員養成関係学位論文集
- 鳥 取 • 四部分類叢書
- 岡 山 • ドイツ歴史史料集成
- 広 島 • 米国情勢調査報告書
- 山 口 • 四庫全書珍本
- 愛 媛 • 大日本古文書正倉院編年文書
- 九 州 • 米国判例体系
 • 石崎文庫蔵本
 • 欧州各国公式経済統計資料
- 長 崎 • 巨大企業・経済集中関係資料
- 熊 本 • 旧幕府引継書
- 鹿 児 島 • シボガ学術探検報告
- 昭和55年度
- 北 海 道 • 初期英国文芸誌コレクション
 • 英国外務省外交記録，ロシア・ソ連関係文書
- 北海道教育 • 英国議会教育関係議事録
- 東 北 • アメリカ各州判例集
- 秋 田 • 児童発達，精神病学及び心理学古典コレクション

- | | |
|--------|--|
| 図書館情報 | • NTIS, 図書館学, 情報科学研究レポート1971—1976 |
| 千葉 | • ゲルマン史料集成—史家, 法律, 国王文書等 |
| 東京 | • 英国政府刊行物コレクション |
| 東京医科歯科 | • ルーヴィエール文庫 |
| 東京外国語 | • モンゴール大蔵経 |
| 東京学芸 | • フランス教育学集書 |
| 東京商船 | • 米国海事関係裁判判例集 (1923~1955) |
| 横浜国立 | • 世界各国地図帳集成 (歴史地図帳, 経済地図帳, 地域別地図帳, オリテリウスの世界舞台等) |
| 金沢 | • 州主題別法令集 (アメリカ主要各州の法令集) |
| 名古屋 | • ホッブスを中心とするイギリス思想史原典コレクション第二期 |
| 愛知教育 | • トイブナー古典叢書 |
| 滋賀 | • アメリカ産業会議刊行物 |
| 京都 | • ペルシャ語文献資料集成 |
| 大阪 | • 欧州各国公式経済統計資料 (1841~1970年) |
| 大阪外国語 | • イタリア著述家全集 |
| 神戸 | • 主要米国会社年次報告書 |
| 奈良教育 | • ドイツ・スポーツ教育学コレクション |
| 奈良女子 | • 都市問題博士論文集 |
| 島根 | • ドイツ最高裁判所全判例集セット |
| 岡山 | • グローズ・シレー判例集 |

- 広 島 • ドイツ大学史コレクション
- 山 口 • 米国議会経済合同委員会報告書（第二次世界大戦から現在）
- 九 州 • 註釈付米国各州法令集
- 熊 本 • シンテーズ文庫

- 昭和56年度
- 北 海 道 • 基礎法学並びに一般史関連コレクション
- 東 北 • 19世紀英国議会報告
- 茨 城 • 英国政府刊行統計資料集成
- 図書館情報 • ロシア・ソ連書誌・図書館学資料集成
- 筑 波 • バウハウス双書と展覧会目録コレクション
- 宇 都 宮 • 世界農林業センサス
- 群 馬 • 柳営日次記
- 埼 玉 • 経済統計基本文献集
- 千 葉 • 米国経済基本統計資料集
- 東 京 • 英国政府刊行物コレクション
 • 米国連邦議会資料集
- 東京学芸 • ロシア、ソビエト教育研究雑誌コレクション
- 東京芸術 • 交響曲
- 新 潟 • 科学史関係文献コレクション
- 長岡技術科学 • 工学・技術政策関係文献
- 福 井 • ハクリュート協会議書

- | | |
|---------|---------------------------|
| 山 梨 | • 障害者の社会参加映画 |
| 信 州 | • アメリカ合衆国経済関係官庁及び行政委員会資料 |
| 岐 阜 | • 静嘉堂文庫 |
| 名 古 屋 | • 18・19世紀ヨーロッパ総合雑誌集成 |
| 愛知教育 | • 保健体育, レクリエーション研究文献集成 |
| 三 重 | • 明治, 大正, 昭和期土地経済及び経済統計資料 |
| 京 都 | • ワイマール共和国コレクション |
| 京都工芸繊維 | • ポスター |
| 大 阪 | • 法学及び国際法関係図書コレクション |
| 大 阪 教 育 | • 知性 (旧名・学校と社会) |
| 兵 庫 教 育 | • 全米カリキュラム資料集 |
| 神 戸 | • 国連公式記録集 |
| 和 歌 山 | • 心身障害者の社会参加と平等に関するコレクション |
| 鳥 取 | • コロンビア大学教育学叢書 |
| 広 島 | • 教育資源情報センタードキュメント |
| 香 川 | • アメリカ合衆国連邦裁判所判例集 |
| 高 知 | • 中国社会思想史コレクション |
| 九 州 | • 英国議会議事録 |
| 佐 賀 | • 東寺百合文庫 |
| 大 分 | • 中世教会史叢書 |

昭和57年度(一部)

- 東 京
- United States Congressional Publications : CIS US Serial Set on Microfiche, and It's Index, pt. 8—12, 64th—91st Congress, 1st Session, 1915—1969. (米国連邦議会資料集 : 米国議会, 委員会刊行諸種報告書1915—1969マイクロフィッシュ版及び同索引)
 - The Nyingma Edition of the sDk—dge bK'a—g'yur and bsTan-g'yur. Reprinted. (デルゲ版チベット大蔵経仏説部・論疏部, 複製版) 1 set. 117v.
- 東京商船
- Transportation Masterfile (U. S. Historical Documents Inst.) 1921~1971 マイクロ版 運輸問題関連文献集成
- 山 梨
- 文部省選定社会教育映画 体育・レクリエーション編 学習研究社 8ミリフィルム
- 琉 球
- Civil Liberty in American History(アメリカ公民権闘争の歴史)

〔本学教官著書寄贈コーナー〕

今回は昭和58年5月21日より昭和58年8月1日まで御寄贈頂きました分を掲載致します。敬称略

- | | |
|-----------------|---|
| 秋永孝義(農業施設工学) | 「青果物の航空輸送に関する基礎的技術の開発」秋永孝義 他執筆 1983
「野菜・花き低温輸送ハンドブック」秋永孝義 他執筆 沖縄県 1983 |
| 古川博恭(地 学) | 「琉球列島の地質学研究 6巻」古川博恭 他執筆 沖縄地学会 1982 |
| 嘉数 啓(国際経済学) | 「プエルトリコの政治・経済発展」季刊沖縄L+E 別刷 1983 |
| 篠原武夫(森林経理学・林政学) | 「林業経済 No.416」 林業経済研究所 1983 |
| 東江平之(社会心理学) | 「沖縄における言語生活および言語能力に関する比較・測定的研究」東江平之 他執筆 沖縄言語心理研究会 1983 |

投書箱より

5月～7月の投書について下記のとおりお答えします。

1. 購入、発注関係

- 刑法、民法関係の新しい図書が少ないということですが、前年度において、前者は20冊、後者は16冊購入しました。今後ともひき続き、新刊の収集に力を入れたいと思います。
- 中野重治全集は、昭和39年筑摩書房発行の全20巻ものが書庫にありますので御利用下さい。また、昭和55年同上社発行の全28巻ものについては近日中に入荷します。
- 購入希望図書の入荷が遅いということですが、予算の関係もあり、購入できない場合もありますができるだけ早めに購入し、利用に供したいと思います。

2. 雑誌関係

- サンケイ、科学、Japan Times などの新聞は、那覇在の取次店から購入しておりますが、配達はできないということでやむをえず2・3日遅れの郵送になっています。他に配達してくれる店もなく、私どもも困っているところであります。
- カビ対策については頭をいためており、現在窓を開放して風通しをよくするとか、薬品による防除等、何かよい方法はないかと、テストや調査をしているところです。
- 最高裁判例集は26巻以後欠号がありますが、それ以前は大審院の頃から揃っております。
- 英字新聞の新規購入については予算に限界があり、むつかしいと思います。もし購入するとすれば購入中のものをけづる以外にありません。新規購入は当分の間のぞめない状況です。
- 本学所蔵雑誌については冊子目録および目録カードがありますので御利用下さい、なお不明な点については雑誌係におたづね下さい。

3. 閲覧関係

- 閉館時間をきちんと決めてください。
館内放送で、貸出時間および戸締り時刻、閉館時間をお知らせしています。(なお閲覧規則にも明記されています。)
- 館内が騒々しい。(5件) 再出
職員が巡視して、直接注意するようにしています。学生の皆さんもお互いに注意し合うようにしてください。
- 閉館時間を延長してほしい。(10時まで、午前2時まで) 再出
以前にも要望があり、22時まで延長したこともありましたが、毎晩2～3人の利用しかいりませんでした。経費のかさむ点からも現在21時閉館になりましたので、御了承ください。

- キャレルの机と腰かけの高さを改善した方がよい。
従来のキャレルの高さで、低いと思われる方は、2階及び3階閲覧室の西側のキャレルをご利用ください。従来のものより5.5cmくらい高くしてあります。(2階3脚, 3階5脚)
- 夏休み期間の図書館使用時間は平常どりにした方がよい。(2件)
夏休み中は他の大学も殆んど夜間開館を行っていません。人件費や光熱費等の予算の関係もありますので、現行どうりご了承ください。

図書館事情

〔第147回図書館運営委員会〕

日時：昭和58年5月21日(土) 9:00~10:00

場所：図書館会議室

議 題

- ① 故平良文太郎文庫設置について

報告事項

- ① 図書館現況と当面の整備計画について
- ② 第13回九州地区国立大学図書館協議会について
- ③ 第34回九州地区大学図書館協議会総会について
- ④ 昭和59年度概算要求について
- ⑤ 文献複写サービス(工・農)について
- ⑥ 附属病院図書管理換について
- ⑦ 講演会について
- ⑧ 映写会について

〔第148回図書館運営委員会〕

日時：昭和58年6月18日(土) 9:00~10:00

場所：図書館会議室

議 題

- ① 昭和58・59年度図書館共通雑誌費について

報告事項

- ① 分館設置に伴う事務組織の改善について
- ② 昭和58年度国立大学図書館関係主要予算額について
- ③ その他

<見学者>

昭和58年5月26日(木) 西原高校図書委員・徳田先生外12名

昭和58年6月4日(土) 那覇ポート旅行会35人(全軍労)

昭和58年7月22日(金) 沖縄県高校司書部会50人

<講演会開催>

日時：6月22日(水) 17:30～

講演者：仲程昌徳(文学) 教養部助教授

演題：沖縄の文学

来聴者：38人

<映画上映>

6月24日(金)、25日(土) 「地下水道」 アンジェイ・ワイダ監督 見学者数137人

<出張>

5月23日(月) 平良恵仁事務長昭和58年度国立大学附属図書館事務部課長会議出席のため、東京へ、25日まで。

5月26日(木) 平良恵仁事務長、仲西盛秀図書係員、第31回九州地区医学図書館協議会総会出席のため北九州へ、28日まで。

6月8日(水) 木崎甲子郎館長、平良恵仁事務長、第30回全国国立大学図書館協議会総会出席のため、札幌へ、11日まで。

6月30日(木) 新井裕丈参考調査係長、「Jicst シソーラス活用シリーズ利用法」説明会出席のため、福岡へ、7月2日まで。

<協議会・委員会>

6月3日(金) 第11回沖縄県大学図書館協議会 18:00～

6月24日(金) 沖縄研究資料調査収集小委員会 17:00～

議題

- ① 収集方針の意義づけについて
- ② 今後どういう資料を収集するか

原稿募集についてお願い

図書館では、館報“びぶりお”を年4回(6月1日、9月1日、12月1日、3月20日)発行しておりますが、次の要領で原稿を募集しておりますのでふるって応募して下さい。

記

1. 内容は、図書館、情報、資料などに関するものであれば結構ですが、その他エッセイでもかまいません。
2. 原稿用紙(A4—400字)は参考調査係に請求して下さい。
3. 原稿の枚数は、3枚半か、7枚半ぐらいお願いします。
4. 締め切りは発行日の1ヶ月前であります。

(参考調査係)

琉球大学附属図書館報“びぶりお” 第16巻 第3号〔通巻第60号〕

昭和58年9月1日

発行人 平良恵仁 沖縄県中城村字南上原858

電話(09889)5-2221 内線(2143) 編集 参考調査係